

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.122) 2022/10/20

目次

1. 第49回大会について
2. 理事会報告
3. 定例研究会（関東）報告
4. 定例研究会（関西）報告
5. 看護・ケア研究部会報告
6. 渉外・国際交流活動
7. 編集後記

---

## 1. 第49回大会について

第49回大会は、「実践の場をひらく——研究の可能性の再発見」をテーマとして、2023年5月27日（土）・28日（日）の両日に、東京都立大学荒川キャンパスにて対面、あるいはハイブリッドで開催を予定しております。

テーマの「実践の場をひらく」には、幾つかの意味を込めております。

第一に、サブテーマにある「研究の可能性の再発見」という意味を含みます。新型コロナウイルスのパンデミックによって、保健医療社会学会が関心をもつ多様な実践の場での調査が、長期にわたって制約を受けてきました。本学会会員の皆様は、その渦中であって、調査の予定を変更したり、研究計画自体を変更したりして、対応をされていることと思います。調査ができずに悔しい思いをしながらも、少しでも可能な方法で研究を再開したり、これまで得てきたデータをもとにまとめを進めたり、されているのではないのでしょうか。そのような研究成果を共有する場として、2023年の大会が位置付けられることを願って、あるいは、この大会での発表をめざして研究成果をまとめて頂きたい、わくわくしながら研究を進めて頂きたい、という願いを込めてこのテーマとしました。

第二に、保健医療社会学会の実践の場は、研究によって様々な意味が与えられます。それによって、大会テーマにもある「実践の場をひらく」ことが実現します。その意味で、大会テーマは、調査をすること、そこから成果を得ること、つまり研究という実践自体を意味しております。その成果は、私たちの手元に留まっておりません。実践から得た成果は、多様な道筋を通して実践の場へと戻っていきます。そのような循環は、保健医療社会学の知の構築と還元、更には発展という循環を作っていく可能性を与えます。

第三に、研究に取り組む中で、私たちは苦しい思いをしたり、躓いたり悩んだりすることがありますが、他方で、新たな何かを発見した時には、楽しくなってきたりワクワクしたりします。大会テーマ、サブテーマは、こうした気持ちを分かち合う場にしたい、という意味も込めております。

対面開催によってこそ、この分かち合いを実現できると考えましたが、まだまだ見通しが不透明です。安全に多くの方に参加を頂くために、理事会や研究活動委員会とも協議し、より良い開

催方法を検討する予定です。決まり次第、複数の媒体でお知らせ致します。

企画としては、大会シンポジウムと理事会企画シンポジウムを予定しており、現在、人選中です。こちらも、楽しみにして頂けましたら幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

(第49回大会長・西村ユミ [東京都立大学])

## 2. 理事会報告

2022年8月2日(火)に2022年度第2回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2022年8月2日(火) 10:00~11:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤理事、本郷理事、前田理事、田代理事、石川理事、山田大会長(第48回)、西村大会長(第49回)、蘭監事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：心光理事

### 1. 第48回大会報告(山田第48回大会長)

山田第48回大会長より配布資料の通り、第48回大会について報告があった。参加者が多かったこと、抄録集の販売があったこと、業者への支払いが安価であったことから黒字となり、運営補助金200,000円を返金し、黒字分の56,102円は学会本体へ寄付することが伝えられた。

### 2. 第49回大会の準備状況の報告(西村第49回大会長)

西村第49回大会長より配布資料の通り、大会実行委員として3名が追加されたことと、大会テーマについて報告があった。開催方法については可能であれば対面とし、状況によってハイブリッドの場合も考慮して検討していくこととし、次回理事会にて決定することとした。現在、委託業者を選定中であり、9月実行委員会にて決定する予定であることが伝えられた。

### 3. 編集委員会報告(井口理事)

井口理事より33巻1号について8月中旬頃に発刊予定であること、33巻2号について大会特集原稿は山田第48回大会長が原稿を集めるとの報告があった。

8月8日に編集委員会を開催し34巻1号の特集等を検討することが伝えられた。

### 4. 研究活動委員会報告(天田理事)

天田理事より配布資料の通り、第48回と第49回大会の引継ぎを6月に行ったことが報告された。

2022年度定例研究会の開催予定が伝えられ、後日会員向けにメール配信を行うこととした。

### 5. 看護・ケア研究部会報告(伊藤理事)

伊藤理事より第49回大会プレ企画を関東定例研究会と看護・ケア研究部会の共催で開催する為、西村第49回大会長と相談しながら進めていることが伝えられた。

### 6. 渉外・国際交流活動報告(石川理事)

石川理事より国際学会の情報収集を行い、次回ホームページ更新時に情報がアップデートさ

れるとの報告があった。

#### 7. ニューズレター122号の発行予定(小澤会長(心光理事代理))

心光理事の代理で小澤会長より配布資料の通り、ニューズレター122号の目次案の確認があった。第49回大会については研究活動委員会ではなく、西村第49回大会長が執筆すること、看護・ケア研究部会報告についても研究活動委員会ではなく、看護・ケア研究部会の鷹田佳典会員が執筆することが確認された。

発行スケジュールについては10月7日原稿締切、10月下旬発行予定の提案があり、承認された。

#### 8. 入退会者の承認について(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り、新入会4名の承認依頼があり、承認された。また、退会4名の報告があった。

#### 9. その他

天田理事より第49回大会にて医学教育ワーキンググループのシンポジウムを開催することが伝えられた。理事会企画として医学教育ワーキンググループが主体となって開催することが確認された。

小澤会長より理事会について対面またはハイブリッド開催を検討していたが、感染状況が芳しくないため、しばらくはオンライン開催とすることが伝えられた。

以上

(戸ヶ里理事:総務担当)

### 3. 定例研究会(関東)報告

2022年度第1回関東定例研究会は、看護・ケア研究部会と共催で、12月27日(火)14:00~17:00、Zoomによるオンライン開催で行います。詳細は看護・ケア研究部会の案内をご覧ください。

2022年度第2回定例研究会(関東)につきましては、EMCA研究会(春の例会)との共催として、下記2冊の合評会を開催する予定をしております。詳細が決まりましたら、皆様にご案内いたします。ぜひ参加をご予定ください。

- ・檉田美雄『ビデオ・エスノグラフィーの可能性——医療・福祉・教育に関する新しい研究方法の提案』晃洋書房
- ・河村裕樹『心の臨床実践——精神医療の社会学』ナカニシヤ出版

(前田理事・研究活動担当)

### 4. 定例研究会(関西)報告

まだ暑さの残る9月24日(土)、2022年度の第1回関西定例研究会をキャンパスプラザ京都にてハイブリッド形式で開催しました。今回は松枝亜希子会員(立命館大学)執筆のご高著『一九六〇年代のくすり——保健薬、アンプル剤・ドリンク剤・トランキライザー』(2022年、生活書院)の合評会でした。コメンテーターには、うつ病や緩和ケアがご専門の精神科医で非会員の

森田幸代氏（滋賀医科大学）をお迎えしました。

合評会は、まず松枝会員からご高著の概要を報告いただき、ビタミン B1 誘導体制剤に代表される大衆保健薬、薬害問題を引き起こしたアンプル入りドリンク剤、抗不安薬として主婦や受験生、果ては子どもまでも服用対象とされたトランクライザーを具体事例として、現代とは異なる販売方法や宣伝広告などといった医薬品の位置づけを提示しました。これらがその後、どのような規制下におかれるようになるのか、薬害問題として批判する研究者や市民、医師、それに行政府がどのように対応したのかを、新聞や一般・専門雑誌などをデータとする言説分析から明らかにしています。報告では、どのような人々を対象に、どのような売り文句で医薬品が宣伝されていたのかを、実際の広告を紹介することで、当時の社会的背景を浮き彫りにしていました。

松枝会員の報告の後、コメンテーターの森田氏からは、分析手法についての質問にはじまり、時代を追っての抗うつ薬の位置づけの変化、世代による医師がもつ医薬品への意味づけの相違など、臨床医ならではのコメントと論点提示がありました。その後、議論をフロアに開いていき、保健薬やトランクライザーなどが規制下におかれるようになった要因として、旗振り役となった医師の存在や、行政側の意向に関して質問があり、現代の薬害再発防止のあり方の議論へと展開していきました。松枝会員も、アンプル入り風邪薬が薬害問題の一つに数えられる背景となった薬害スモンやサリドマイド薬害に言及しながら、薬害問題の横のつながりや薬害運動に関するさらなる検証が必要であると指摘し、今後の薬害問題の歴史研究にフロアからの期待が寄せられました。

当日は秋の連休の最中にもかかわらず、フロア参加が6名（登壇者除く）、リモート参加が（最大）29名と盛況でした。

なお、2022年度第2回の関西定例研究会を年度末に開催予定ですので、こちらの方にも奮ってご参加下さいますよう心よりお待ち申し上げます。

（本郷理事・研究活動担当）

## 5. 看護・ケア研究部会報告

### 1) 2022年度第1回定例研究会報告

日時：2022年7月15日（土）14：00～16：00

場所：オンライン（Zoom）

第1報告：「吃音とパニック障害を抱え生きる経験からの一考察——病と自己の境界線」（坂井志織：淑徳大学、小林道太郎：大阪医科薬科大学）

概要：

吃音とパニック障害を抱え生きる当事者の語りから、長く病むことにおいて疾患をどのようなものとして経験し、どのように捉えているのかを記述的に明らかにすることを目的とした研究を報告した。個別性の高い経験でありながら、そこから見えてきた病い経験の本質的なものを、どのように一事例で示していけるのか査読過程を経て悩んでいることを検討課題とし、議論を実施した。議論を経て、自分と病気の関係を考えるにあたり既存の健康—病気という軸ではない経験が語られており、現象学的研究で探求する意義をよりクリアに述べること、社会学で為された吃

音の当事者による研究を参照すること、健康であるとも病であるとも言い難い狭間の経験であることなどを論述していく方向性が見えてきた。

## 2) 2022年度第2回定例研究会報告

日時：2022年9月17日(土) 14:00～17:00

場所：オンライン (Zoom)

第1報告：「外傷により脊髄を損傷した人の経験」(村上優子、東京都立大学)

概要：

外傷により脊髄を損傷した人の、特に受傷後まもない時期の経験について、現象学的記述によって明らかにすることを目的とした研究を報告した。

論文投稿につなげていくための課題について、さまざまな視点から議論することができた。投稿先の選定、データの特徴を反映させたタイトルや目的を意識すること、自身の研究の立ち位置をどのように記述していくと伝わりやすくなるのか、データの価値が伝わるような記述や考察の展開について、等々、今後の論文投稿に向けて貴重な示唆をいただいた。

また、論文投稿だけでなく、研究成果の公表の方法は多様であることについても気づかせていただくことができ、研究成果の公表の可能性がひらけたと感じた。

## 3) 公開定例研究会(第1回関東定例研究会と共催)

今年度の公開研究例会は、2023年5月27日(土)・28日(日)に東京都立大学で行われる第49回大会(大会長：西村ユミ)を盛り上げるべく、大会連動企画として実施します。また、研究活動委員会との共催として、2022年度第1回定例研究会(関東)として開催されるものです。

第49回の大会テーマは「実践の場をひらく——研究の可能性の再発見」です。長引くコロナ禍で思うように研究が実施できない状況もありますが、そうしたなかでもフィールドへの関わりを続けながら、あるいは新たにフィールドを開拓し、そこで研究を重ね、成果を再びフィールド/社会へとフィードバックする営みがさまざまに行われています。

本例会では、さまざまな実践の場に赴き、継続的な研究を行ってこられた大阪大学の村上靖彦先生にご登壇いただき、フィールドへの関わりやそこでの研究についてお話いただきます。また、東京大学大学院の三枝七都子さんと東京大学医科学研究所の木矢幸孝さんのお二人に、指定討論者としてコメントをいただき、その後、皆様とともに議論を深めていければと思います。参加を希望される方は、2022年12月25日(日)17:00(厳守)までに下記申込フォームより参加登録をお済ませ下さいませよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

主題：第49回大会「実践の場をひらく——研究の可能性の再発見」連動企画～フィールドに根ざした継続的研究とその成果～

日時：2022年12月27日(火) 14:00～17:00

場所：Zoomによるオンライン開催

講演者：村上靖彦(大阪大学)

指定討論者：三枝七都子（東京大学大学院）、木矢幸孝（東京大学医科学研究所）

●参加登録：

- ・会員／非会員の区別なく、参加費無料で、先着100名まで参加可
- ・参加希望者は事前に参加登録を行う

申込フォーム URL：<https://forms.gle/Jt1BqmtMNd2zwxgg7>

- ・参加登録の締切：2022年12月25日（日）17:00

4) 2022年度第3回定例研究会の案内

日時：2023年3月11日（土）14時～17時

開催方法：対面での開催も検討していますが、新型コロナの感染状況によってはZoomによるオンライン開催に変更します。

報告者：募集中

各回、最大2名まで報告可能ですので、報告をご希望される方はご希望の方は下記フォームからお申込みください。

<https://forms.gle/hS5mawrBgaYxaSca9>

\*対面開催時、100km以上遠方からお越しの報告者には、ご本人が希望する際に限って、交通費の半額（領収書を当日お持ちください）を補助します（ただし、上限2万円）。事前に資料を印刷してご持参いただきますので、印刷の領収書（レシート）をもって実費支給補助制度もあります。

（看護・ケア研究部会・鷹田佳典氏、伊藤理事・研究活動担当）

## 6. 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、引き続き、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。

第12回 IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議 (IAGG-AOR2023)

2023年6月12～15日に横浜で開催予定。

演題応募締切：2022年11月30日

<https://www.iagg2023.org/index.html>

第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology)

2023年6月25～7月1日にオーストラリアのメルボルンで開催予定。(ハイブリッド開催予定) 大会テーマは「Resurgent Authoritarianism: The Sociology of New Entanglements of Religions, Politics, and Economies」。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023>

アメリカ社会学会 2023 年大会 (第 118 回年次総会) (American Sociological Association)  
2023 年 8 月 17~21 日にペンシルベニア州フィラデルフィアで開催予定。

<https://www.asanet.org/annual-meeting/2023-annual-meeting>

欧州医学教育学会 (AMEE, The Association for Medical Education in Europe)  
2023 年 8 月 26~30 日にスコットランドのグラスゴーで開催予定。

<https://amee.org/conferences/>

ヘルスケアコミュニケーション国際会議 (ICCH, International Conference on  
Communication in Healthcare)

2023 年 10 月 22~25 日にプエルトリコのリオ・マールで開催予定。

<https://www.achonline.org/Events/International-Conference-ICCH/2023>

(石川理事：渉外・国際担当)

## 7. 編集後記

ニューズレターNo.122 では、来年 5 月に開催される第 49 回大会と研究会情報を中心に掲載いたしました。12 月には第 49 回大会との連動企画もございます。ふるってご参加ください。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92 から PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(心光理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (心光世津子)
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375